

# 3 年保育の教育課程編成に向けての基礎研究

## 4 歳児の人とのかかわりに視点をあてて

幼児教育研究会議

根津 牧子<sup>1</sup>

山本 陽子<sup>2</sup>

杉浦真由美<sup>3</sup>

三浦美津子<sup>4</sup>

### 要 約

平成 15 年度，私たちが待ち望んだ 3 年保育の教育実践が，幼児教育センターと連携して研究を行う研究実践園において始まる。3 年保育を始めるに当たり，幼児教育研究会議においては平成 11 年度より 3 歳児の特性と教師の配慮について研究を進め，教育課程編成に向けての基礎資料を得てきた。これまでの研究では，教師や興味あるものを支えにしながら過ごしてきた 3 歳児の姿がとらえられている。その後，4 歳児は興味・関心の広がりとともに，どのように友達（周りの子）や自分の周りの世界へかかわる姿となっていくのだろうか。本研究会議では，4 歳児の保育観察を継続して行いながら，遊びを通して人とかかわりを楽しめるようになっていく過程での姿を探ってきた。

4 歳児が興味・関心をもったもの（対象）とかかわる姿に視点をあてて分析を進めてきた結果，「人とかかわりを楽しめるようになっていく過程での個人差が大きい」「思ったこと，感じたことなど言葉や身体で表現することが増える」「興味・関心の対象を広げていくような探索行動が見られる」などの 4 歳児の特性がとらえられた。また，3 歳児・4 歳児の発達の特長を見通した姿から，人とかかわりを楽しめるようになっていく過程で大切だと思われることや，教師の援助の方向性が見えてきた。

キーワード： 幼児教育，3 年保育，人とかかわり，4 歳児の特性，興味・関心

### 目 次

	主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・
研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・	
研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・	1．人とかかわりの姿からとらえた 4 歳児の特性について・・・・・・・・
1．研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・	2．発達の特長を見通した幼児の姿と 援助について・・・・・・・・
研究の構想図・・・・・・・・・・・・・・・・	3．まとめと今後の課題・・・・・・・・
2．研究の実践・・・・・・・・・・・・・・・・	保育観察協力園・・・・・・・・
(1) 文献や先行研究などから幼児の 発達過程について知る・・・・・・・・	参考文献・・・・・・・・
(2) 人とかかわりの姿についての 共通理解・・・・・・・・	指導助言者・・・・・・・・
(3) 事例研究・・・・・・・・	

<sup>1</sup>川崎市立白幡台小学校附属幼稚園教諭（長期研修員）<sup>2</sup>川崎市立住吉小学校附属幼稚園教諭（研修員）

<sup>3</sup>川崎市立鷺沼小学校附属幼稚園教諭（研修員）<sup>4</sup>川崎市立南百合丘小学校附属幼稚園教諭（研修員）

## 主題設定の理由

川崎市幼稚園教育振興計画の本格的スタートとなる平成 15 年度 私たちが待ち望んだ 3 年保育の教育実践が、幼児教育センターと連携して研究を進めていく研究実践園において始まる。川崎市立幼稚園は現在 5 歳児のみの 1 年保育を行っているため、3 年保育を始めるに当たって様々な文献から教育課程編成のための資料を作成したり、実際に 3 年保育の体験研修を行ったりする中で、幼児の発達の過程を探ってきた。幼児教育研究会議においても、3 年保育の教育課程編成に向けての基礎研究として、平成 11～12 年度は「人とのかかわり」<sup>1)</sup>に、また平成 13 年度は「環境とかかわる姿」<sup>2)</sup>に視点をあてて、事例を通して 3 歳児の特性と教師の配慮についての研究を進めてきた。

これまでの研究の中で得られた 3 歳児保育についての基礎資料と、これまで自分たちが積み重ねてきた 1 年保育 5 歳児の保育実践とを考え合わせた時、3 年間の幼児の発達過程を見通した教育課程につなげていくためには、4 歳児の姿に目を向けていく必要があると考えた。

幼稚園教育要領解説書では、幼稚園教育の基本に関連して重視する事項として、(1)幼児期にふさわしい生活の展開 (2)遊びを通しての総合的な指導 (3)一人一人の発達に応じた指導 の 3 項目を挙げている。そして、その中で、『幼児の生活は、そのほとんどは興味や関心に基づいた自発的な活動からなっている。』、『幼稚園生活では、幼児が友達と十分にかかわって展開する生活を大切にすることが重要である。』<sup>3)</sup>と述べている。また、幼稚園教育の目標の項では、『幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。』<sup>4)</sup>とある。生涯学習の出発点である幼児期は、人間形成の基礎を培う時期であり、人とかかわり合う生活を通して、その存在を意識しながら、様々な感情の体験を積み重ねていくことが大切であると本研究会議では考えた。

そこで、平成 11 年度からの研究の結果を踏まえた上で、今年度は“人とのかかわり”に視点をあてて、4 歳児の保育観察を継続的に行い考察を深めていきたいと考え、次のように主題を設定した。

### <主 題>

3 年保育の教育課程編成に向けての基礎研究  
4 歳児の人とのかかわりに視点をあてて

これまでの研究では、教師や興味あるものを支えにしながら、次第に周りの環境に目を向けてかかわっていかうとする 3 歳児の姿がとらえられている。その思いや願いは、その後、興味・関心の広がりとして、どのように友達や自分の周りの世界へかかわる姿となっていくのだろうか。今年度は、幼児が遊びを通して人とのかかわりを楽しめるようになっていく姿を探っていきたいと考え、研究のねらいを次のように設定した。

#### 研究のねらい

- (1) 4 歳児が遊びの中で、人とのかかわりを楽しめるようになっていく過程を探る。
- (2) 人とのかかわりから見られる 4 歳児の特性を探る。
- (3) 4 歳児の保育を行う上での教師の配慮すべき事柄について探る。

1) 小林朝香他「3 年保育の教育課程編成にむけての基礎研究 3 歳児の人とのかかわりに視点をあてて」

川崎市総合教育センター研究紀要第 14 号 2001 年

2) 吉岡久美他「3 年保育の教育課程編成にむけての基礎研究 3 歳児が環境とかかわる姿に視点をあてて」

川崎市総合教育センター研究紀要第 15 号 2002 年

3) 『幼稚園教育要領解説』文部省 1999 年 p. p.26 - 28

4) 『幼稚園教育要領解説』文部省 1999 年 p.45

# 研究の内容

## 1. 研究の方法

### (1) 文献や先行研究などから幼児の発達過程を知る。

文献や平成 11～13 年度までの幼児教育研究会議における研究などから、3 歳児から 5 歳児までの発達過程を見通しながら、人とのかかわりに関する 4 歳児の姿を理解する手がかりとする。

### (2) 人とのかかわりの姿について共通理解する。

研究を進める上で大切だと思われる次のような事柄について、研究会議の中での共通理解を図る。

- ・人とかかわることとは
- ・心動かす対象としての遊びの環境とは
- ・かかわりを楽しんでいる姿とは

### (3) 園での生活全体の流れの中での 4 歳児の様子を、保育観察し記録をとる。

< 研究協力園 > A 幼稚園（川崎市内私立幼稚園 3 年保育）

〔園児数〕 3 歳児 72 名(18 名 4 クラス), 4 歳児 72 名(36 名 2 クラス), 5 歳児 72 名(36 名 2 クラス)

〔期 間〕 平成 14 年 5 月から平成 15 年 2 月までとし、月ごとの回数、曜日等は特に限定しない。

〔対 象〕 4 歳児 1 クラスから着目児 2 名を選び、観察する。

- ・自分の思いを出しきれずにいる 4 歳児 1 名
- ・豊かなイメージをもち自分から周囲へかかわっていく姿が見られる 4 歳児 1 名

〔観察者〕 長期研修員

- ・保育には参加しないが、子どもからの働きかけがあれば対応する

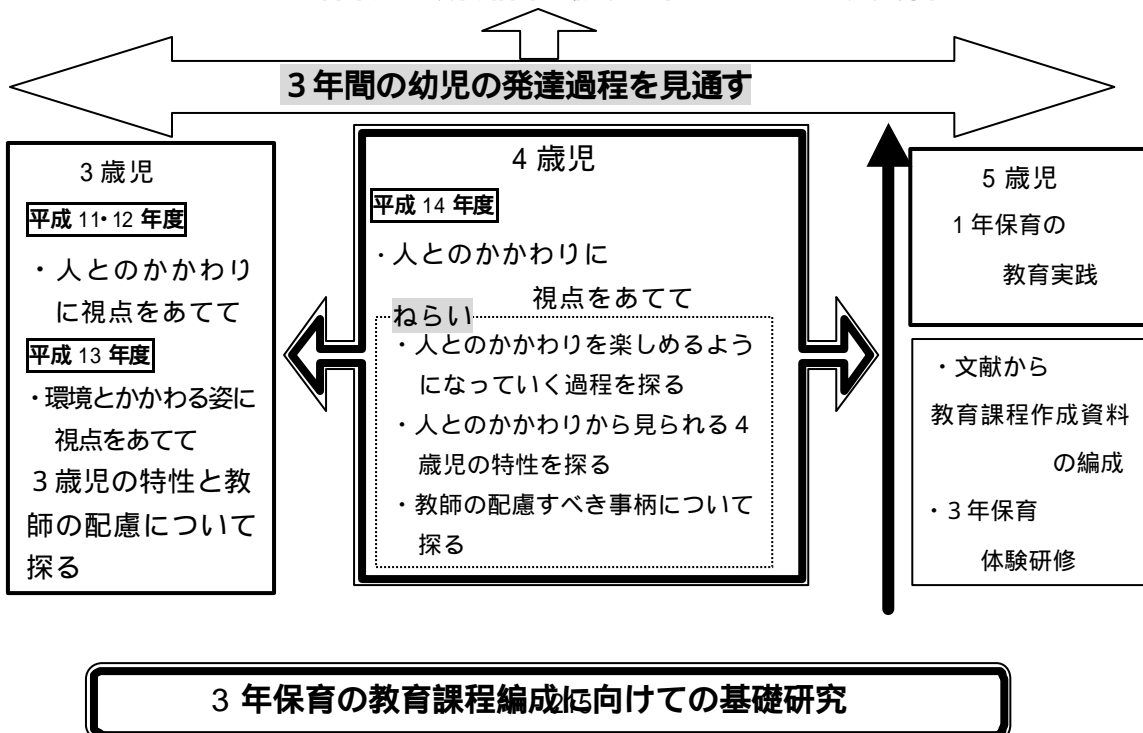
### (4) 事例を考察する。

記録した事例をもとに研究会議（1 年保育の 5 歳児担任 3 名を含む 4 名）で、4 歳児が遊びの中で興味・関心をもったもの（対象）にかかわっていく姿に視点を置いて考察する。

### (5) 4 歳児の特性を探る。

（4）の考察から得られた結果を通して、4 歳児の特性や教師の配慮すべき事柄（援助の方法、環境の在り方等）について探り、3 年保育の教育課程編成に向けての基礎資料を得る。

## 【研究の構想図】 3 年保育の教育課程編成に向けての基礎資料



## 2. 研究の実践

### (1) 文献や先行研究などから幼児の発達過程について知る

4歳児に着目して研究を進めるに当たって、文献や幼児教育研究会議における先行研究、ビデオ視聴、また昨年度の3歳児保育の体験研修で得られた幼児の姿などを手掛かりにしながら、まず、3歳児の特性について共通理解していくようにした。

本研究会議の中では、3歳児の特性として次のようなことを共通理解した。また、これらの姿をまると温かく認め受け入れてくれる存在としての、教師のかかわりの大切さを確認した。

- ・周りの状況に左右されず、自分の思いを主張する。
- ・自分中心で周りの状況が見えにくく、興味のあるものに一直線に向かっていく。
- ・言葉での表現が少なく、遊具や教師を媒体として人とかかわりをもつ。
- ・自分の興味・関心をもったものに対して、こだわりが強い。
- ・自分の思うままに行動する。

4歳児については、3歳児に比べてその姿についてのイメージがもちにくいという意見も出されたが、5歳児の1年保育を進めてきた中で「1年間の保育では、3年保育の幼児の姿が凝縮して見られる。」「5歳児の姿の中に、まだ4歳児のように感じられる部分もあり、幼児の成長を幅広くとらえ保育していたように思う。」などの意見が出された。

研究を始めた時点における話し合いでは、4歳児の特徴として次のような姿が予想された。

- ・仲間に入りたい、友達と遊びたいという思いとともに、どうかかわったらいいのかわからず、葛藤も増えてくるのではないだろうか。
- ・トラブルの場面に直面しても、少しずつ自分の気持ちを抑えたり我慢したりすることができるようになるのではないだろうか。
- ・幼稚園での生活や遊びの中で自分でできることが増え、いろいろなことに興味を示しやってみようとするようになるのではないか。

川崎市公立幼稚園協議会が作成した教育課程編成のための資料には、3歳児から5歳児の発達の道筋として、3歳児は「保育者との関係が主」、4歳児は「友達への認識が芽生える」、5歳児は「友達との関係が確立してくる」<sup>5)</sup>と示されており、これらの姿と4歳児の観察における事例での姿とを合わせながら研究を進めていき、4歳児の特性を明確にしたいと考える。

### (2) 人とのかかわりの姿についての共通理解

#### 人とかかわることとは

ここでいう『人』とは、幼稚園生活の中で展開される活動でかかわるすべての人ととらえる。具体的には、クラスの友達、他クラスの友達、異年齢児、担任教師、他の教職員、保護者などである。

本研究会議の中で事例を検討していく際に、言葉も交わさず、お互い同じような行為を繰り返している並行遊びの状態に見えても、かかわっていることを感じる場面が話題になった。『かかわる』ということについては、直接的なかかわりの場面での姿だけではなく、その前後の幼児の姿や心の動きなどについても丁寧に見ていくことが大切であると考えた。また、国語辞典では『かかわる』を“関係をもつ状態、つながりをもつ”ということの他に、“大きな影響を与える”とある。

以上に述べたことから、本研究会議では『人とかかわる』ということを次のように共通理解した。

- ・幼児が自分の周りにいる人に能動的に働きかけて、関係をもつ状態
- ・言葉を交わしたり、一緒に遊んだりする以外でも、見ている、真似るなど相手を意識して、自分の行動に何らかの影響を受ける状態（イメージを働かせるきっかけになること）

5)川崎市公立幼稚園協議会『教育課程編成のための資料』- 三年保育教育課程の編成 - 1998年 p.p.14-19

## 心動かす対象としての遊びの環境とは

本研究会議では、幼児を取り巻く保育環境について次のように共通理解した。

### 人的環境

- ・幼稚園生活の中で展開される活動の中でかかわるすべての人

### 物的環境

- ・園舎，保育室，固定遊具など容易にはその形態を変化させることが難しいもの
- ・遊具，用具，素材など，幼児自らがかかわりをもって楽しんでいくことができるもの
- ・身近な生き物，植物，水や砂などの自然物，風や温度などの自然環境，時間，場所，空間など

これらの環境が，幼児の意識や遊び，生活の仕方などに影響を与え，かかわりをもつことによって，初めてその幼児にとって意味のある環境となるのであろう。そして，それが幼児の心を動かし，自分の思いや願いが興味・関心の広がりとして周りの世界にかかわりをもち，次第に友達とかかわっていくことの楽しさにつながっていくのではないだろうか。

### かかわりを楽しんでいる姿とは

3歳児は，教師との信頼関係に支えられながら“もの”とのかかわりを大切にして過ごしてきた。興味・関心をもったもの（対象）にかかわりながら，さらに自分の世界を広げていこうと思われ

る4歳児の姿を，表情・声・視線の動き等からも見逃さないようにしていくことが大切であると考え

る。また，幼児の成長の段階に応じて行動の表し方も異なってくると思われるため，事例を考察していく際にはそのことも十分に意識しておく必要があると考える。

上記のことから，かかわりを楽しんでいる姿を，「幼児が自分の興味・関心のあることに向かっ

て，心や身体を動かして意欲的にかかわっている姿」ととらえることとした。

### (3) 事例研究

3年保育の4歳児より着目児2名を選び，継続的に観察を進めていく。そこで記録をとった事例を

もとに，幼児が興味・関心をもったもの（対象）にかかわっていく姿に視点をあてて考察することを

繰り返していった。

保育観察は，5月から2月までに22回行った。その際には，できるだけ担当指導主事も同行し，複

数の目で観察を行うようにした。しかし，1人で観察を行うこともあり映像や写真での記録は行え

ないため，主観的な記録にならないように次のことに留意した。

- ・ありのままの幼児の姿をとらえるため，活動や場面を限定せず記録する。
- ・幼児の行動・言葉だけでなく，ちょっとした動作や表情・視線などについてもできるだけ細かく観察し記録する。
- ・観察をしていく中での疑問や理解しにくい部分等については，担任に伺い補っていく。
- ・研修員とともに，事例から見られる幼児の姿を多面的にとらえていくようにする。事例の考察については，着目児の姿について書かれた記録用紙に，観察者が感じたことや，読み取りについて記す欄を設ける。さらに，それぞれの研修員の気付きや疑問，読み取りも合わせて記入し，それをもとに幼児の姿を多面的にとらえ，話し合いを深めていくようにする。

### 着目児について

A児の着目理由……教師や友達の動きをじっと見ていることが多く，自分からはなかなか遊びにかかわっていきにくい様子が感じられた幼児である。友達への関心は示しているものの，その思いを伝えられずにいるA児が，遊びの中でどのように自分の思いを伝え友達とのかかわりを楽しめるようになっていくのかを探りたいと考えた。

**B 児の着目理由**……初めての観察日に、自分で作ったマントを1日中身につけ、豊かなイメージを表現しながら周囲へのかかわりをもととしていた幼児である。物（自分のマント）を支えにして、友達や興味・関心をもったものとかかわろうとしているB児が、どのように自分の世界を広げ、人とかかわりを楽しめるようになっていくのかを探ることによって4歳児の特性につながるヒントが得られるのではないかと考えた。

**事例の話し合いについて**

事例の考察については、以下のような話し合いを繰り返し、研修員とともに着目児の行動を探った。

【B児の事例 3 6月10日(月)はれ】

**B 児 の 様 子**

・登園する。走ってクラスの前まで来ると、室内にいた担任に「ピアノの(形の)プールなおった?」と大きな声で聞く。担任がうなづくのを確認すると、安心したように微笑む。靴を脱ぎ、靴箱の前に座り込みそこで一緒になったL児、H児と話し込む。2人は3分ほど話をすると室内へ行ってしまいが、B児は上履き、遊び靴を一つ一つ確かめるように揃えながら片付けをすすめる。

(8:55)

・保育室に入り、2Fの観察用テラスにプールバックを片付ける。階段を下りてくると、テーブルの周りで箱製作をする友達の様子を黙って見ている。  
 ・持っていた着替えの袋をぐるぐる回して遊ぶ。そのまま(袋の紐を握った手の形) 頭の上に手を乗せ、セブン~セブン~と歌いながら近くにいたL児に「見て! L君。」と言い、目が合うと2人で笑い合う。

(9:05)

・実習生に「B君、お支度しよう。」と声をかけられ、かばんをロッカーに置きに行くが、近くに友達が来るとサッカーの話やアニメの話などをする。  
 ・テラスのコップ掛けにコップを掛けに行くと、そこでD児がモップがけをしている。すぐに「僕にもやらせて!」と言い、棒の上部を持って2人で一緒に動かす。(4~5回で手を離す。)

(9:10)

・保育室に入り、製作をしている友達の様子を見るが、すぐにレジのおもちゃを持ってままごとコーナーに行く。(1人で)隣のクラスのS児がB児に気付き、「B君、何やってんの?」と聞くが、B児は黙ってレジを操作している。  
 ・クラスに戻ったS児は、そこからアイロンとアイロン台を持って来て、黙ってB児に渡す。(B児のクラスにあるものとは違うもの) B児も黙って受け取る。その後、S児は行ってしまふ。B児がスイッチの一つを押すと電気がつく。棚にあるカゴの中からままごと用のスカートを1枚取りアイロンがけをする。違うボタンを押すと音楽が鳴る。今度はカゴごと自分の近くに運び、スカートのアイロンがけをする。

観察者が感じたこと・気付き 等

担任からの情報

先週末、プールのポンプが故障したという話をし、土日の休みの間もプールに入れるかどうか気にしていたようだ。

プールへの期待が大きく、心配が解消されたことで安心して友達との話を楽しんでいるようだ。

片付けをしながらも、周囲の遊びや友達の様子を見て、関心を示している。

登園してから遊びに移るまでのこのような探索行動の時間が大切なのかな?自分なりに十分確かめな

友達とおしゃべりが、楽しくて仕方がないんだろうな。イメージがどんどん湧

目についたものにすぐ反応し、何でも自分なりにかかわってみようとしているな。

S児は、アイロンを提示することでB児と一緒に使い、遊びたかったのではないかとB児のクラスのものとは違うアイロンへの強い興味が、友達とかかわりをもちにくくしてしまったが、まずは1人でじっくりとかかわ

B児のクラスのものとは違うおもちゃ。一つ一つのボタンを押す、その特徴を確かめるようにしてかかわっている。

(9:25)

・ B児は、職員室へ走って行きドラえもんの人形を持ってきてベビーカーに乗せる。0児が取ろうとすると「ダメッ!今日は一緒に遊ばないよ。」と言い、D児に向かって「じゃ、行ってきます。」と声をかける。

0児が真似して「じゃ、行ってきます。」と言うと、B児は「ダメ!」と大きな声を出す。

・ D児に向かってB児は「行ってきます。」と言いベビーカーを押してテラスからプレイギャラリーを一周し戻ってくる。

「ただいま。今度は犬の散歩をしてくる。」とぬいぐるみを床に置くが立たないのですぐにやめる。

今度はD児が、ベビーカーを押して行く。

(9:35)

・ 0児が箱を探している姿を見て、B児もラップの芯を取り、担任に「先生、剣作っていい?」と聞く。教師がうなづくのを見てテープでつなげ始める。

・ D児が戻ってきてB児に「Rちゃんも入れていい?」と聞く。「いいよ!僕、怪獣いるからやっつけてくる。」と剣を持ち勇ましいポーズをとる。

戦いごっこ以外の遊びではかかわりが少ないように思うが、“0児は戦いごっこをする仲間”というイメージがあるのだろうか

B児には、人を受け入れる子というイメージをもっていたが、「だめ」と言った当たり、何かこだわりがある

自分の遊びを十分楽しみ、やっと0児からのアピールに気持ちが向いてきた  
トウダ

「ままごとは、もうやめた!」という意味のことを、そう言わずに違う遊びに移っていくように思ったが、B児のイメージの中では遊びが繋がっているのだろうか

### この日の事例を通しての考察

<興味・関心の動き、対象とのかかわりから>

この日はプールへの期待が大きく、登園して、まずポンプが直ったかどうかを担任に確かめることで安心し、周囲の関心あるものへ次々にかかわっていくB児の姿が見られた。

その中で、感じたことをユニークな言葉で表現したり、自分なりにやってみて確かめたりしながらかかわり、遊び始めるまでの間様々な探索行動をしている様子が見られた。

レジやアイロン、立体パーキングなどのおもちゃとじっくり遊びながらかかわり、一つ一つ自分なりにその動きや遊び方を確かめている様子が見られた。その間、友達からの働きかけは多くあったものの、それに対するB児の反応は少なく、かかわりが広がりにくくなっているように思われた。しかし、近くで遊んでいる友達の存在を感じながら、同時に自分の興味・関心あるものと十分にかかわることができたことで、次の友達との遊びへスムーズにつながっていったのではないかと思われた。










### 事例のまとめについて

5月から1月まで22日の保育観察を行い、A児の事例については13回、B児の事例については12回を記録することができた。その記録を、次のように分けて整理し、分析していった。

- ・ その日のA児・B児の活動の流れ
- ・ 興味・関心のあるものへのかかわりの姿
- ・ 他児からのかかわりの姿
- ・ かかわりの様子
- ・ 人とかかわりからの読み取り
- ・ かかわりを楽しめるまでに経験していること

かかわりの様子の図については、人とかかわり以外にも、安定を得られるものや場所、興味・関心のあるものなども含めて示した。また、A児・B児の人やものへのかかわりの方向や広がり、つながりの強さ(心理的距離)などを矢印の太さや種類を変えて表した。

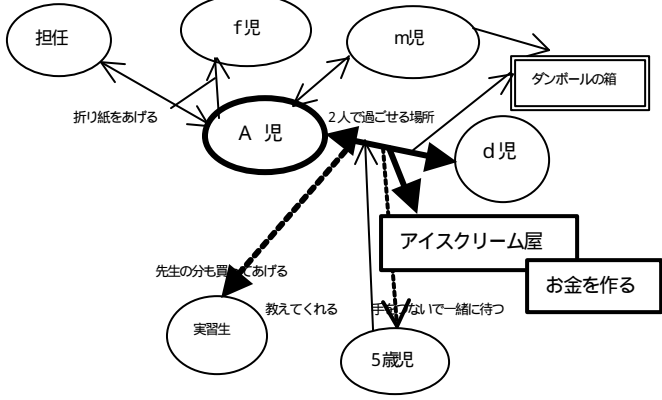
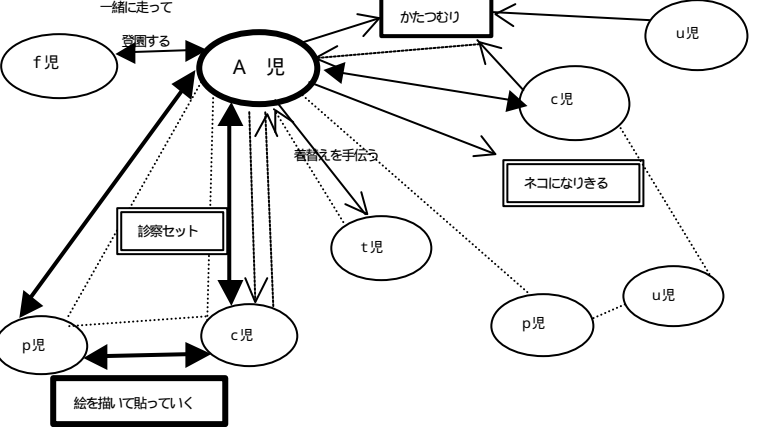
### 次ページからの事例中の図の意味

	... 安定を得られるもの・場所など		... お互いに意識し合う
	... 興味・関心のある遊び		... 相手からのかかわりに対して 弱いかわり
	... 直接的なかかわり		... 場の共有 (直接的なかかわりは少ない)
	... 間接的なかわり		
	... お互いにかかわり合う		
	... “ {楽しさの共有}		

A児の興味・関心をもったもの(対象)とのかかわりの様子

	事例 1 5月28日(火) 晴れ 8:40~10:50	事例 3 6月11日(火) くもりのち 晴れ 8:45~9:40
活動の流れ	登園後、しばらくの間テラスやギャラリーなどで遊ぶ友達の様子を見ながら歩き回る。 実習生とc児がピアノを弾いている所へ行き、一緒に弾こうとするがスピードについていかれず止めてしまう。 d児がいなくなった所で、近くにいたd児を誘い一緒にピアノを弾く。 d児と一緒にままごとを始める。 紙粘土の遊びをしている様子を見て、担任に「やりたい。」と言い、遊び始める。	3歳児と手をつなぎニコニコしながら登園する。 c児と実習生の会話に加わったあと、テラスに出て担任と一緒に登園する友達を迎える。 実習生と隣のクラスの男児2名がボール遊びをしているところに行く。 t児が泣いているのに気付き声をかける。 r児と一緒に職員室へ行き、出たり入ったりしながら職員とのやりとりを繰り返す。その後戶外へ行き、2人で一緒に行動する。
A児の興味・関心へのしのかかわりの姿	周囲の様子を、じっと確かめるように見ることでかかわっている。 教師の言葉や動きなどに関心に向け、大人とかかわろうとすることで安心している。 自分がピアノを弾くのを、児に見せて教えようとしている。 アイロンがけの遊びを黙々とやっている。d児からの言葉かけに反応は少ないが、大学教授からの言葉に「お父さんになって?」とすぐに返事をし、アイロンがけを続ける。 ・d児がいなくなったことで、周囲の友達の様子が声に反応し、近づいて様子を伺う。 「紙粘土をやりたい」と、自分から担任に伝える。粘土をこねながらも、友達と実習生のやりとりに関心に向けじっと聞いている。	担任に「いってきま〜す。」と大きな声で言い、3歳児を保育室まで送っていく。 c児が「蚊に刺された」という話を聞いて、「蚊取り線香を使ったけど蚊に刺された」という自分の経験を話す。 ・指を動かしピアノを弾く動作をしながらピアノに行くが、q児が弾いていたのでテラスの担任の近くで友達を迎える。 様子を見ながら少しずつ近づいていき、転がってきたボールをひろう。男児が先生に投げるタイミングの合間を見計らってボールを渡し「やって?」と言い、先生との距離をとる。 「どうしたの?」と声をかけるが、実習生がt児に気づいて対応したので1歩下がって様子を見ている。 職員と目が合うと声を上げて笑いn児と2人で逃げてくる。3~4回繰り返し、スキップで保育室に戻ってくる。 ・n児と一緒に池を覗き込んだり、土管の中を追いかけ合ったりして同じ動作をする。
他児からのかわりの様子	・d児…自分のイメージを伝えて一緒に遊ぼうとするが、反応が少ないためかやがて違う遊びに行ってしまう。 ・t児, p児, q児…場の共有はしているが、特にかかわりは無い ・担任…A児が「やりたい」と言ったことにスムーズに取り組み始められるように、準備を整える。	・m児…テラスで登園を迎えているA児の顔を見て、唇を震わせて見せ2人で声を出し笑い合う。 ・t児…A児の声かけは気づいているが、泣き続けている。 ・n児 … A児と一緒に行動し、同じ動作をする。
かかわりの様子	<p>The diagram shows A child at the center. A box labeled 'ピアノ' (Piano) has arrows pointing to A child with labels '誘って一緒に弾く' (Invite to play together) and 'すぐに止めてしまう' (Stop immediately). A box labeled 'アイロン' (Iron) has an arrow pointing to A child with the label '一緒に遊ぶ・場の共有' (Play together / Shared space). A box labeled '実習生・担任 他の人' (Teacher/Staff/Other people) has an arrow pointing to A child with the label '安心・安定' (Calm/Secure). Other children (c, d, t, p, q) are shown with arrows pointing to A child, labeled '見ると場の共有' (Look and share space) and '教えてあげる' (Teach/Help).</p>	<p>The diagram shows A child at the center. Arrows point to 't児' (Child t) with '心配し声をかける' (Worried, call out), 'n児' (Child n) with '一緒に行動・同じ動作をする' (Act together / Same actions), '園の職員' (Staff) with '弾こうとするが止める' (Try to play but stop), 'ピアノ' (Piano) with '弾こうとするが止める' (Try to play but stop), 'q児' (Child q), 'c児' (Child c) with '自分の経験を話す' (Share own experience), '実習生' (Teacher/Staff) with 'タイミングを計り声をかける' (Time it, call out), '男児2人' (Two boys), '3歳児' (3-year-old) with 'で連れて行く' (Take with), and 'm児' (Child m) with 'イヤ' (No).</p>
人とかかわりから読み取り	・教師や実習生など自分の思いを受け止めてくれる大人の存在を頼りどころにして、周囲の様子に目を向け確かめながら行動している。 ・「ピアノを弾きたい」という思いも、1人ではなくd児を誘うという姿から友達への関心が感じられる。 ・d児と一緒に行動する、場を共有することで安心して自分のやりたいことに集中して取り組むことができた。	・自分の思ったこと、経験などを話したり遊びに加わったりすることなど、大人の存在をきっかけにして行動に移している。 ・自分の好きなことや知っていること、できることについては「友達にも教えてあげよう、やってあげよう」などのかかわりが見られる。 ・気持ちを言葉で伝えることが上手くできない分、スキップや手をつなぐなどの行動で表している。
かかわりに経験していること	・大人とかかわりがA児にとっての支えになって、友達に意識を向けている。  ← 自分ができていることをすることからかかわろうとしている。 (相手の反応から、自分のかかわりを考えていこうとする姿が見られる。) →	・大人の存在を媒介にしながら友達と一緒に行動する楽しさを味わっている。



事例 4 6月17日(月) くもり 8:45~9:50	事例 9 9月17日(火) くもりのち雨 8:45~10:40
<p>登園時、担任に折り紙で作った花を手渡す。後から来た友達に、自分なりの方法でかかわっていく。</p> <p>d児と一緒にダンボールの中に入り遊ぶ。</p> <p>5歳児のアイスクリーム屋に買い物に行くために2人でお金作りをし、買い物に行く。</p> <p>実習生のためにもう一度買い物に行く。</p>	<p>門の前で f児と会い、一緒に登園する。</p> <p>d児が持ってきたかたつむりをケースに移す。</p> <p>c児、u児、p児と一緒にお化粧品屋さんをして遊ぶ。</p> <p>新しい仲間を誘う。</p> <p>紙に絵を描いて、お化粧屋のサークルに貼っていく</p>
<p>担任にあげた折り紙の花を、後から来た f児にあげる、m児の顔を指でチョンチョンとつつく、青虫の飼育ケースを頭にのせるなどの行動でかかわろうとする。</p> <p>d児に声をかけ2人でいられる場所、ダンボールの箱の中に入って遊ぶ。</p> <p>ギャラリーで5歳児がアイスクリーム屋を開いているのを見つけ、d児と手をつなぎスキップで保育室に戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージでお金を作る。d児と手をつないで買い物に行き、1歩引いて様子をじっと見て待っている。アイスクリームを買おうと、舐める真似をしながら手をつなぐに戻る。</li> <li>うれしそうに実習生に見せ、またお金を作る。</li> </ul> <p>2度目は実習生の分も買うために、パンナを3つ注文するが2つしかもらえない。d児と顔を見合わせもう一度3つということをも3本指を示し伝える。注文と違うストロベリーを渡される再度2人で顔を見合わせるが保育室に戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>d児と2人で実習生をアイスクリーム屋に案内する。</li> </ul>	<p>ニコニコしながら、f児と一緒に走って来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持ってきたねこじゃらしでf児をくすぐる真似をする。</li> <li>c児、u児、実習生が見ている中、かたつむりを袋からケースに移す。</li> <li>A児がかたつむりを持つと、「きゃー」と言う声上がり、c児の顔の近くにかたつむりを近づけてみせる。ネコになり、鳴き声を真似たり爪を磨く仕草をしたりして役になりきっている。</li> <li>c児の「もっと仲間入れたいな。」の言葉に、2人で走って仲間を探しに行く。</li> <li>m児、担任に声をかけ誘う。</li> <li>仲間に入ってくれる友達のことを、待っているc児に報告しに行く。</li> <li>早く遊び始められるように、仲間に入ったt児の着替えを手伝うが終わるとt児は別のところへ行ってしまう。少し追いかけて行くが、あきらめてc児の所へ戻る。</li> <li>c児、p児、A児はそれぞれに診察セットを使ってぬいぐるみに薬を飲ませたり体温を測ったりして遊び、会話はなし。</li> <li>c児の「紙に絵を描いて」という提案で、p児と2人で絵を描き始める。初めはぬいぐるみを見ながら慎重に描いていたが、2枚目からは「なんか寝てるみたい」と面白そうに笑いながら4~5枚続けて描く。</li> <li>“びょういん”と書こうとして教師に文字を聞いていると、c児に「かして」と鉛筆を取られそうになる。「書ける」と言って渡さないようにするが取られてしまい、プイと違う所へ行こうとする。</li> <li>しかしすぐに戻り「お化粧品書いてよ」と確認するように言う。</li> <li>テープで貼っていく際、テープを丸めてつける方法を教える。</li> <li>描く、貼るの役割を交代しながら進め、サークルにほぼ1つ1つ貼った絵を見て満足そうに眺める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>m児…A児からのかわりに顔を見合わせて笑い合う。</li> <li>m児ダンボールに入っている2人の様子を覗いて見る。</li> <li>d児…2人でいられる場所で一緒に過ごす。</li> <li>5歳児…買い物に来た2人の様子に気づき、声をかけて教えてあげる。</li> <li>d児…お金を作り、A児と手をつないで一緒に買い物に行く。</li> <li>d児…注文通りのアイスがもらえずA児と顔を見合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>f児…一緒に走って登園する。</li> <li>c児…直接声はかけないが、A児が気づくようにテーブルの上にかたつむりを置く。</li> <li>u児…A児のかたつむりを持つ動きにあわせて「きゃー」と声を出し楽しむ。</li> <li>u児、p児…同じ場で同じ遊びをしているが、かわりは少なく自分のしたいことをしている。</li> <li>p児…何気なく言葉をつぶやいているが、A児が反応してくれることを意識している。</li> </ul>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>不安なことがあっても、友達と一緒にいることやアイスクリームを買いたいという目的がはっきりしていることで乗り越えていける。</li> <li>気持ちを言葉で伝えることが上手くできない分、スキップや手をつなぐなどの行動で表している。</li> <li>具体的にイメージをもちやすいお店やさんごっこをきっかけにして、言葉のやり取りや売り買いの楽しさに気づき楽しめた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登園してくる時から、友達に対してかわりをもとうとする姿があり、遊び始めるまでの時間が早くなってきている。</li> <li>一つの遊びから次の遊びへのつながりがスムーズにつながっている。しかし、仲間に入ると言ったt児が他へ行ってしまったことで少し遊びが停滞していることから、友達の存在が遊びを楽しむ上で必要なものとなってきていることがうかがえる。</li> <li>誘いに行ったA児も、自分が戻る場にc児、p児がいてくれたことが支えになったのではないだろうか。</li> </ul>

・友達と一緒にいることで、多少の困難があっても自分の思いを相手に伝えようとする。その結果、受け入れられた喜びを感じることができた。

・興味ある物を媒介にして友達とかわり、楽しさを共有している。(事例6:6月)

・目的意識をもって行動する。(事例8:9月)

・遊びのルールを理解し、はっきりとした目的をもってそれに向けて友達と一緒にかわっていく楽しさを感じている。

・自分の遊びを楽しむために、友達の存在が必要なものになってきている。

“仲間を増やす”ためにはどうするか考えながら、積極的にかわっていく。

**B児の興味 関心をもったもの（対象）とのかかわりの様子**

	事例1 5月30日(木) 晴れ 8:50~10:30	事例3 6月10日(月) 晴れ 8:45~9:45
活動の流れ	登園時、友達が新しいレジのおもちゃで遊んでいる様子を見つけ近づいて行き遊ぶ。 レジについているマイクで友達と順番に話をする。 保育室の様子が前日までと違っていることに気付き、見て回る。 剣を持ちマントを身につけて、友達の遊ぶ様子を見て回る。 レジのおもちゃで、お店屋さんごっこをする。	走って登園する。遊び始めるまで25分の間、友達と話したり製作する様子を見たりしながら自分の荷物を片付ける。 レジのおもちゃを持ってままごとコーナーで遊ぶ。 ままごとをして遊ぶ。 空き箱で剣を作る。
B児の興味関心のあかき姿	「どうしたの?」と担任に聞きながら、ボタンを押してみる。 ・友達がレジを操作すると鳴る“ピッピッ”と言う音がする度に、E児、F児、G児と顔を見合わせて笑い合う。 友達が提案するジャンケンで4人の順番を決め、思い思いのことをマイクに向かって話す。 1人が話すたびに4人で顔を見合わせて笑い合う。 新しいおもちゃを見つけ、一通り出してみながら「あー、こんなの無かったよ。」と担任に言う。 ・剣の無いのに気付き、探しに行き、マントを身につけてくる。 レールをつなげているH児、I児の近くに行き無言で汽車を持ちレールの上を走らせる。 ・病院ごっこを見に行き、聴診器、注射器などのおもちゃを一通り使ってみる。 ・J児を見つけ、「戦いごっこしよう?」と声をかけるが聞かえず、J児の話題にのる。 レジのおもちゃを見て「僕にも貸して?」と声をかけ、カードの操作をして買い物ごっこをする。(K児、L児、F児と一緒に使う) ・買い物に来た友達とK児、L児のやり取りを見ながらマントをはずし、「大きいお店にしよう」など、イメージしたことを言葉にして言う。 ・L児と同じ言葉を繰り返しては、顔を見合わせて笑い合う。	走ってクラスの前まで来ると、室内にいる担任に「プールなあった?」と大きな声で聞く。 ・靴箱の前に座り込み、L児、H児と話をする。 ・着替えの袋をグルグル回しながら、ウルトラマンの真似をして歌をうたい、L児と目を合わせて笑い合う。 ・テラスにコップを片付けに行き、モップがけをしているD児に「やらせて」と声をかけ、一緒にモップを持って動かす。 レジのおもちゃを持ち、1人でままごとコーナーに行く。S児に「何してるの?」と声をかけられるが反応なし。 ・S児がかかわ組からアイロンのおもちゃを持ってきてB児に渡すが、黙って受け取る。 ・一つ一つのボタンを押して、電気がついたり音が鳴ったりするのを確かめるようにして遊ぶ。 ・O児が剣を持ってポーズをとって見せるが、B児はアイロンのおもちゃで遊び続ける。 ・立体パーキングのおもちゃを取り、動かそうとするが動かさず担任に「動かない!」と言う。 D児に声をかけられ「1人暮らし!」と言いこっとする。 ・近くにいたL児に「入る?」と声をかけるが聞かえない。D児が「入っていい?」と聞くとき背中を向けたまま「いいよ。」と言う。 ・ぬいぐるみをベビーカーに乗せ、散歩に行く。 ・O児に対して「今日は遊ばないよ!」2人暮らしだから入っちゃダメ!と言う。 O児が箱を探しているのを見て、空き箱で剣を作る。
他児からのかかわりの姿	E児・F児・G児...一緒にレジのおもちゃを使い、面白さを感じて顔を見合わせ笑い合う。 マイクで話をする順番をじゃんけん決めて提案する。 ・J児...ベイブレード(こまのおもちゃ)の話をする。 ・F児...「みんなで一緒に使うんだよ」と提案する。 ・K児...お店屋さんになって、品物を持ってくるB児からカードを受け取り一緒にレジを操作する。 ・L児...一緒に買い物をして、B児の言った同じ言葉を繰り返したりして楽しむ。	・L児、H児...一緒に靴箱の前で話し込む。 ・S児...声をかけるが反応が返ってこないため、アイロンのおもちゃを持ってきて見せる。 ・O児...剣を持ちポーズをとってみせるが反応が少なく、B児の遊ぶ様子を見る。 ・P児、Q児...担任に言ったB児の声を聞き、立体パーキングのおもちゃを直してあげる。 ・D児...ままごとの仲間に入りたくて声をかける。 ・O児...ぬいぐるみを取ろうとしたり、B児の動きや言葉を真似して繰り返したりする。
かかわりの様子		
人とのかかわりから読み取れること	・身の回りの環境への関心が強く、興味が次々と広がっている。 ・友達の遊びへの関心が強く積極的にかかわる姿が見られるが、相手の動きに添うという行動が多い。マントを身につけることで安定し、自分のやりたい遊びに向かおうとする。 ・自分のイメージしたことを、言葉にして表現することが多い。(相手に向かって話しかけたり、ひとり言のようだったりする。) ・友達と同じ言葉を繰り返すことで楽しさを共有している。	・周りの環境へ強い関心に向け、感じたことを言葉で表現したり、やってみたりしながら自分なりに確かめ遊び始めるまでの時間が長くなってきている。 ・アイロンや立体パーキングなどのおもちゃへの関心が強く、一つ一つ試しながらじっくりとかかっている。その間、友達からの働きかけに対する反応は少なくなり、かかわりが広がりにくくなっている。
経験していること	・自分が安定する“もの”を支えに周囲への関心を広げている。 興味ある“もの”を媒介にしてかかわりながら、次第に周囲の友達と遊ぶ楽しさを共有する。 音を出したり同じ言葉を繰り返したりすることに反応して、その面白さを共有している。 ・同じものを身につけることで遊びの仲間になれる。(事例2:6月) ・相手の気持ちや、相手に応じた対応の仕方をB児なりに考えている。	・自分のイメージを言葉や身振りで表現したことで、友達とその面白さを共有する。友達を感じる。 ・ものに対する関心が強く、じっくりとかかかわることでおもちゃの機能を確かめている。 ・友達の存在が影響して、苦手なことにもじっくりとかかわりながら挑戦しようとする。(事例4:6月)

<p>事例6 7月15日(月) 晴れ 9:25~9:45</p>	<p>事例8 9月 9日(月) 雨 9:17~11:00</p>
<p>おもちゃのダンプカーに砂を入れたりこぼしたりして遊ぶ 仲間が増え、シャベルで砂を盛って遊ぶ。</p>	<p>新聞紙で剣を作り、腕に箱で作ったトランシーバーのアイテムをつける。 1人でレールをつなげ電車と遊ぶ。 レールの遊びを続けながら、ゴーライジャー(ヒーロー)ごっこに誘われ仲間に入る。 レールをやめ、ままごとコーナーに行き料理を始める。 新聞紙で剣を作る。</p>
<p>W児と一緒にダンプカーに砂を入れて遊ぶが、顔を合わせることはなく視線は常にダンプに 向いている。 ・教師が通りかかると「見て!先生」と声をかけ、ダンプに乗せた山盛りの砂を嬉しそうに見せ る。 ・砂場で料理を作っているX児、Y児、H児、Z児の様子を時々見ながら、砂を盛っていく。 Y児が「車、やる」と言うのを聞き、カゴから自分と同じ小さいシャベルを取って渡す。 ・V児が大きいシャベルを取ると、Y児、W児も大きいのに変える。Y児と同じ色のシャベルを 取る。 ・Y児が「手のほうがいっぱい握れる」とシャベルをしまうと、真似してしまおうとするが、W 児の「手だと隙間からこぼれちゃう」の言葉にうなづきシャベルで掘り続ける。</p>	<p>剣を作るがすぐに片付け、トランシーバーだけをつけて隣のクラスに行く。ミニカーで遊んでいるV児、 W児の近くに行き、黙ってミニカーを持ち床の上で走らせる。 ・M児を見つけそばに行き、一緒に金魚を見ていると金魚が飛び跳ねる。瞬間、2人で顔を見合わせて笑 う。 M児と一緒に保育室に戻るが、1人で廊下へ行き電車とレールを出して遊び始める。 青い剣を持ったJ児が来てB児に「ゴーライジャー(ヒーローごっこ)やる?」と誘いかける。「いいよ」 と返事をし役を決めるが、そうしながらもレールをつなげ遊び続ける。 ・通りかかった担任が、O児とJ児に「2人ともかっこいいポーズだね。戦ってるよりその方がいいな」 と言っている声を聞くと、電車を置いて担任の近くに行く。キックするポーズを決めて見せるとすぐに レールをつなげる遊びにもどる。 ・J児が来ては「~ライジャーやつけた」と報告すると、B児は胸につけたアイテムで応答する。 電車を置き、J児と一緒に「よし行くぞ」と勢いをつけ走り出すが、途中でままごとコーナーに立ち止 まり「ねえ、ここのおうち…」と言うがJ児は行ってしまふ。1人でおもちゃを出し料理を始める。 ・J児が「怪獣見つけた」と言いに来ると「今、チャーハン作ってるんだよ」と言う。 ・J児が「1人じゃぜんぜん戦えない」と言うので「何かあったら、これ(アイテム)で話すから安心し ろ」と言う。 ・「怪獣にやられた」と言って倒れこんでいるJ児を助け起こし、戦いに行く。ツメ爪をつけたT児を見て 2人で面白そうに逃げ回るが、途中で剣を持ったO児が叫ぶと「いやーだ」と言って大声で拒否をす る。 新聞紙を取り「おんなじの(剣)作る」とJ児に言うと、J児が丸めテープを貼っていく。 ・担任が「B君自分で出来ると思うよ。やってごらん」と声をかけると「出来ない」と言う。担任が押さ えていると自分でテープを巻いていくが、いなくなるとまたJ児が続きを作る。 ・J児が巻くのをじっと見ていたが「今度、僕がやる」と交代し、作り始める。 ・出来上がると嬉しそうに担任に見せに行く。床の上にJ児の剣と並べて比べ「同じになった、同じ長さ だ」と言い顔を見合わせて笑い合う。</p>
<p>・W児…B児の声に反応するように、同じ言葉や動作を繰り返す。 B児が水を飲みに行くと、テラスまで迎えに行き待つ。 ・W児…小さいシャベルを持っているB児に「大きいのにしないの?」と聞く。 ・Y児・V児…言葉を交わすことはないが相手を意識して言葉を発したり動いたりする。</p>	<p>・M児…金魚が飛び跳ねる様子にびっくりし顔を見合わせ笑い合う。 ・J児…B児を積極的にゴーライジャーに誘う。場面の共有は少ないが、同じ遊びを楽しんでいる。 ・T児…一緒に遊んでいたのではないが、J児とB児が逃げ回ってくれるのを意識して動いている。 ・J児…B児の剣を作ってあげる。後半、B児が「自分でやる」と言い作るのを手伝う。 ・担任…出来ないというB児の不安を受け止め、やってみようとする姿を支える。</p>
<p>・言葉のやり取りは少ないが、お互いに相手の行動を意識して動いている様子が強く感じられて いる。 (自分の言葉や考えに同意して、同じ動きをしてくれるかどうかを試しながら動いている) ・同じものを持つことでつながりを感じ、楽しさの共有をしている。</p>	<p>・戦いごっこをやりたい思いはあったが、剣がうまく作れなかったことでその他の興味ある遊びに向かっ ている。ヒーローごっこに誘われ仲間に入り、それまでの続きをしながらも友達からの声かけに回答し 一緒に遊んでいる感覚を味わっている。 ・苦手意識のあった剣作りも、「同じものを作りたい」というB児の思いと、教師や友達に支えられた安心 感があったからこそ、作り上げた時の喜びが大きいものになったのだろう。</p>

・相手の動きを意識して自分の動きを対応させていく。(感じてわかる)

・場面の共有は少ないが、友達とのつながりを感じ同じ遊びを楽しんでいる。

・遊びの中で“~したい”という思いをもち、それを表現しながら苦手なことも  
やってみようとする。

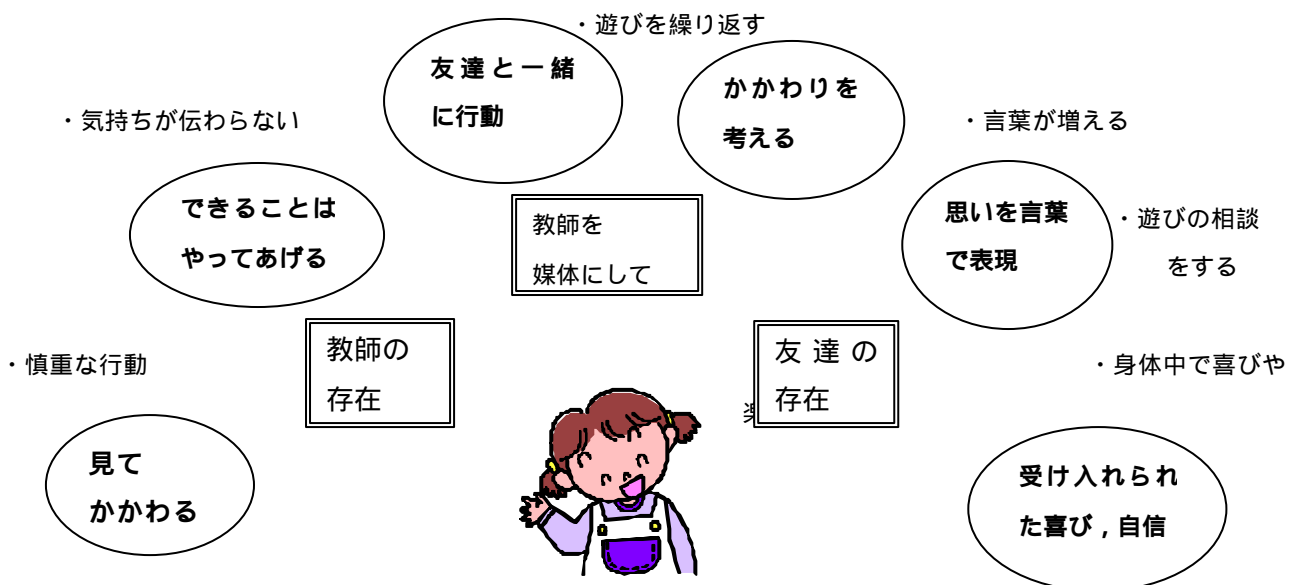
## 興味・関心をもったもの（対象）とかかわる姿からとらえたA児・B児の変容

興味・関心をもったもの（対象）とかかわるA児・B児の姿を観察し、事例を分析していくことで、その姿の変容から「幼児にとって意味のある経験をしていると思われること」が見えてきた。そしてその経験の積み重ねは、「友達とのかかわりを楽しめるようになっていく過程」としてとらえることができた。

### A児の変容

- ・進級当初は、登園してから遊び始めるまで周りの様子をじっくり“見る”ことで、自分なりに見通しをもってからかかわっていく姿が多かった。教師の言葉や動きなどに関心を向け、その存在を拠りどころにして周り確かめながら行動している様子からが見られた。（事例1：5月）
  - ・自分のできることは友達にも“やってあげたり教えてあげたりすること”でかかわろうとしている姿が、A児の1学期のほとんどの事例から見ることができるが、言葉での表現が少なくいきなり行動で示すことが多いので、その気持ちが相手には伝わらず戸惑う姿も見られた。
  - ・次第に教師の存在を媒体にしながらいと友達と一緒に行動する楽しさを味わい、相手の反応から自分のかかわり考えていこうとする姿が見られるようになった。このようなことを繰り返し経験していくことで、自分の思いを言葉で伝えたり同じ目的に向け友達と遊びを繰り返したりしながら、相手に受け入れられた喜びを感じることでA児の自信につながってきたと思われる。（事例3：6月～事例8：9月）
  - ・2学期になると急に言葉が増え始め、登園時から意欲的に友達に働きかける姿が見られるようになり、遊び始めるまでの時間も短くなってきた。事例9（9月）では、自分たちの遊びをより楽しいものにしていくために、友達と相談する、新しい仲間を積極的に誘うなどしながら、積極的にかかわっていこうとする姿が見られ、A児の遊びに向かう時の支えが、教師から友達に変化してきていることがうかがえる。
  - ・進級当初に比べて、“じっと見る”という行動が少なくなり、自分の関心のある遊びや物事にかかわりながら周りの様子に意識を向けるという余裕も見られるようになった。
- 大勢の仲間と楽しむ集団遊びにも意欲的に参加し、同じチームの仲間に声をかけたり相手チームを挑発したりしながら身体中で喜びや楽しさなどを表現している姿が見られていた。（事例10：10月～事例11：11月）

### A児が友達とのかかわりを楽しめるようになっていった過程



## B 児の変容

- ・進級当初、自分が安定できるものとかかわりを支えにして、周囲への環境に関心を示し、次々と興味の幅を広げている姿が見られていた。

事例1（5月）では、自分のやりたい遊びがありながら友達の遊びにも関心を示して積極的にかかわり、相手の動きに添うという行動が見られていた。その中で、興味あるものを媒体にして友達とかかわり一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、同じ言葉を繰り返して言い合ったりする面白さを味わっている姿が見られた。

- ・事例3（6月）では、周囲への関心の強さは見られるものの、自分が関心をもったものに一つ一つじっくりとかかわりながら確かめようとすることで、友達とかかわりが広がりにくくなったように思われた。

しかし、他児からB児への働きかけによって友達の存在を感じ取りながらも自分の遊びに集中することができたと思われる。

- ・自分のイメージしたことを言葉や身振りで素直に表現し、友達と面白さを共有しながらその存在を感じ続けることで相手の気持ちや相手に応じた対応の仕方をB児なりに考える姿が事例4（6月）、事例5（6月）から読み取ることができる。

- ・友達の行動に対する意識の強さが、事例6（7月）の頃からはっきりと見られるようになり、自分の好きな遊びに取り組みながらも、同じものを持つことでつながりを感じたり相手が同じ動きをしてくれたりするかどうか、試しながら動くことを繰り返している。

また、場面の共有はなくてもお互いのイメージの中でのつながりをもち、一緒に遊んでいる感覚を楽しんでいる様子が事例8（9月）からとらえられる。

- ・苦手意識のあることや、初めてのことにに対して「できない。」と言うことが多かったB児も、事例8（9月）以降、遊びの中で“友達と同じものを作りたい”“同じことができるようになりたい”などの思いを表現し、相手に伝えながら友達や教師の存在を支えに“自分でやってみる”という姿に変わっていった。

## B 児が友達とかかわりを楽めるようになっていった過程

・遊びの見通し



## 研究のまとめ

### 1. 人とのかかわりの姿からとらえた4歳児の特性について

A児・B児の変容から見られる共通した姿と、他児からのかかわりの姿から次のような4歳児の特徴的な姿をとらえることができた。

友達と同じものを身につけたり、同じ言葉を繰り返したりすることで楽しさを共有することができる。

イメージしたことや思ったこと、感じたことなどを言葉や身体で表現することが増える。直接かかわりをもたなくても、同じ遊びをしている相手を意識して行動したり、つながりを感じとったりしながら遊びを進めていく姿が見られる。

自分の気持ちと相手の気持ちの違いを感じ取り、自分のかかわりを修正していこうとする姿が見られ始める。

周りに対して常にアンテナをはりめぐらせ、興味・関心の対象を広げていくような探索行動が見られる。

遊びが繰り返し行われることで、自分なりに遊びの見通しをもってかかわることができるようになり持続時間が長くなっていく。

興味・関心をもったものに対し、自分なりに触れたり試したりしていく中でイメージをふくらませてかかわっていく。

人とのかかわりを楽しめるようになっていく過程での個人差が大きい。

### 2. 発達の特性を見通した幼児の姿と援助について

昨年度までの3歳児についての先行研究と、本研究会議における4歳児の実践事例とをつなげて見ていく中から、幼児が人とのかかわりを楽しめるようになっていく過程で大切だと思われることがとらえられた。

#### (1) 心動かす環境との出会い

幼児は“物”“空間”“人(友達)”に興味・関心をもつことから遊び始める。

3歳児では、「教師との信頼関係に支えられて、物に対する興味・関心から遊びが発する」ことが昨年までの基礎研究で明らかにされている。個々の遊びを繰り返し楽しみながら、次第に自分の周囲の環境や友達に目を向け、さらに興味・関心を広げかかわっていくことで、遊びがより豊かなものになっていくのではないかと。

事例の中で、4歳児の遊びは、単なる“物”や“場所”ではなく、友達の存在が感じられる“物”や“場所”に興味・関心が向けられている様子が見られた。その中で、やってみたいことが共通していたり同じ目的をもっていたりする人と楽しさを共有していくことで、「友達という認識」が芽生えていった過程がとらえられた。

#### (2) イメージを表現しながら遊ぶ(イメージを働かせる)

3歳児では個々のイメージの中での遊びが多く、独自性が強い。

4歳児になると、偶然の発見や生活の中の出来事、自分の経験、友達のしていることの刺激などから自分なりにイメージしたことを友達と共有し合うことから一緒に遊ぶことが増えてくる。しかし、そのイメージの共有は大枠の部分での共有であり、友達とのかかわりながら刺激を受けたことが、さらに新たなイメージをふくらませるきっかけになっていくという繰り返しが見られた。

#### (3) 繰り返し遊ぶ

同じ場所や遊具で繰り返して遊ぶことで安心感を得ていくという3歳児の姿は、何度も同じことを繰り返しじっくり試しながらかかわっていく中で次第に物事を認識し、かかわり方を考えていく4歳

児の姿につながっていく。徐々に“こうするとこうなる”という期待から遊びの見通しがもてるようになり、遊びが繰り返され継続していくという過程が見られた。

#### (4) 友達と同じことをする楽しさを味わう

友達と同じ動作をしたり同じ物を身につけたりすることで楽しさを感じて、遊びの仲間になり楽しさを共有していく。魅力的な友達の遊びに刺激され模倣しながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようになっていく。

3歳児では、一人一人が興味をもったものに十分かわることができる環境が必要とされている。

4歳児においても同様であるが、言葉での模倣が多くなり互いに同じことを言ったり繰り返したりしながら遊び、そのことがさらに遊びを広げていくきっかけになっている様子が見られた。

#### (5) 教師や友達の存在を感じる

友達と遊ぶことの楽しさを実感することが、人とかわかる上で大切なことである。3歳児では、そばでいつも見守っていてくれる教師の存在が大切な環境としてとらえられ、幼児が安定して遊びに取り組んでいく姿につながっている。心が安定して遊びに没頭していく中で、さらにそばにいる教師や友達から共感され声をかけてもらうことで充実感や満足感が得られ楽しさへつながっていく。「人とかわかることの心地よさを感じることで、次の活動への意欲につながっていく」ことが4歳児の事例から明らかになった。

以上のように3歳児から4歳児の姿を見通してとらえた時、4歳児の保育を行っていく上で配慮すべき教師の援助の方向性が見えてきた。

一人一人の興味・関心に添いながら、幼児が自分から働きかけて遊び出せるようなきっかけをつくる環境の工夫をしていく。

友達と同じことをしたり何度も繰り返し遊びを楽しんだりしていく中で自分の力を十分に発揮できるような、遊びの時間や場所を保障する。

幼児が自分なりのやり方で試したり工夫したりしている姿を認め、自信につながる援助をしていく。

周りの世界へ広がりをもっていく4歳児が自分に自信をもって行動できるように支えていくことが大切である。そのためには、教師から信頼されているという実感を味わえるように“できることは任せる”というかわりを大切にしていく。

### 3. まとめと今後の課題

本研究では、4歳児が人とのかわりを楽しめるようになっていく過程を探ってきたが、友達との遊びがより楽しく豊かなものになっていくには、単に友達の広がりだけではなく遊びが充実していくことが大切であると考えた。幼児は心動かすものや出来事などの遊びの環境と出会うことで、自分なりに試したりじっくりかかわったりしながら遊びを繰り返し、次第に周りの友達や友達との遊びに興味・関心を広げていく。“物”から“友達との遊び”に興味・関心を広げていくことでさらに刺激を受けて遊びがより豊かになり、その中で自分の気持ちや思いを表現したり、自分のもてる力を発揮したりしながら“自分の世界”を広げていくという過程が事例から明らかになった。

本研究会議では、4歳児の特性を探っていくことで3歳児から5歳児の発達を見通した育ちの過程が明らかになると考え研究に取り組んできた。しかし、これまでの研究の中でとらえられた3歳児4歳児の姿から5歳児の姿を考えた時、生活経験や集団生活の経験の違いもあり、3年保育の5歳児と1年保育の5歳児の姿に差があるように思えた。今後の保育実践の中でさらに理解を深めなが

ら3年間の育ちを見通した3年保育の教育課程を編成していくことが必要であると考え。  
幼児の発達を理解し年齢に応じた教師の配慮は必要であるが、単に年齢で区切るのではなく個々の成長のペースを大切にしながら、“この子に今必要な経験は何か？”ということを中心に考え、かかわっていくことが大切であると考え。

研究を通し、幼児の行動の意味を多面的にとらえていくことが大切であることを実感している。今後は、人とのかかわり以外の視点からも幼児の育ちを探っていくことで、幼児の遊びを支えていく教師の援助の幅を広げるヒントを得ることができると考える。

4歳児の姿を継続して観察していく中で、これまでの5歳児1年保育での時間的なゆとりのなさを改めて感じている。平成15年度からの3年保育の教育実践においては、より細やかな保育の可能性が広がっていくだろうと期待している。これまでに得られた基礎資料と、4歳児の姿を見つめた本研究が、3年保育の教育課程を編成していく上での参考になればと願っている。

最後になりましたが、洗足学園大学附属幼稚園には、昨年度の研究より引き続き保育観察をさせていただきました。ご理解とご協力をいただくことで、この研究をここまでまとめることができました。3歳児・4歳児の保育観察がなければ成り立たない研究であっただけに、快くご承諾いただき心より感謝申し上げます。

また、適切なお助言をいただいた先生方をはじめ、様々な形で研究を支援して下さった教職員の皆様にも心よりお礼申し上げます。

#### 【保育観察協力園】

洗足学園大学附属幼稚園

#### 【参考文献】

- |   |       |
|---|-------|
| 津守 真『保育の体験と思索 子どもの世界の探求』 大日本図書              | 1988年 |
| 森上史朗, 大場幸夫, 無藤隆, 柴崎正行「乳幼児保育実践研究の手びき」ミネルヴァ書房 | 1988年 |
| 柴崎正行『幼児の発達理解と援助』 チャイルド社                     | 1992年 |
| 佐々木正美『子どもへのまなざし』 福音館書店                      | 1999年 |
| 『幼稚園教育要領解説』文部省                              | 1999年 |
| 佐々木正美『続子どもへのまなざし』 福音館書店                     | 2001年 |

#### 【指導助言者】

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 東京家政大学教授(川崎市総合教育センター専門員)      | 柴崎 正行 |
| 川崎市公立幼稚園長会会長(川崎市立新城小学校付属幼稚園長) | 高橋 薫  |
| 神奈川県教育庁教育部指導主事                | 小林 朝香 |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事             | 青柳 道子 |
| 川崎市総合教育センター研修指導主事             | 大久保 光 |